

Management Club Report

Feb. 2008/Vol.62

Monthly Opinion 《プラス成長医院の共通項を探る》

前号で『経営実態アンケート』の集計結果をグラフで紹介しましたが、今月の前段は、対前年比成長率で見た『プラス成長歯科医院』と『マイナス成長歯科医院』をその度合いで3グループに分け、それぞれに何か特別な共通項が存在するのか探ってみたいと思います。

そして後段は、開業1年目にして月間売上500～600万円レベルを達成した歯科医院での取り組みについて紹介します。

1

プラス成長歯科医院とマイナス成長歯科医院

医療経済実態調査

厚労省が昨年10月に発表した、平成19年6月実施の医療経済実態調査結果によれば、1施設当りの月間保険診療収入は個人立の歯科診療所においては2,984千円、医療法人立や市町村立を加えた全体では4,005千円で、2年前の17年6月時点と比較してそれぞれ-3%、-1.9%といずれもマイナス成長となっています。

一方、自由診療収入は個人立が423千円、全体では570千円で、2年前との比較では+12.3%、+12.9%のプラス成長を見せていますが、収入全体に占める割合が低いため、保険診療の減収分をカバーするまでには至らず、医療収入全体としては個人立で-2.5%、全体でも-0.7%と落ち込んでいます。

過去3回の医療経済実態調査における個人立歯科診療所の収入状況が日本歯科新聞に掲載されていたので、転載します。

実施年月		H13. 6	H15. 6	H17. 6	H19. 6
収入金額合計	金額(千円)	3,857	3,700	3,544	3,455
	前期比(%)	▲6.4	▲4.1	▲4.2	▲2.5
保険診療収入	金額(千円)	3,358	3,279	3,076	2,984
	前期比(%)	▲7.7	▲2.4	▲6.2	▲3.0